

ワンガリ・マータイさんが播いてくれたMOTTAINAIの種。  
思い新たにキャンペーンを展開



MOTTAINAIの旗の前で笑顔を見せるマータイさん(2010年2月10日:関西国際空港)

ノーベル平和賞受賞者で毎日新聞社とともにMOTTAINAI(もったいない)キャンペーンを進めてきたケニアの環境活動家、ワンガリ・マータイさんが9月25日、ケニアのナイロビ病院で死去した。実はこの3週間前、現地でマータイさんにインタビューしたばかりだったので、改めてナイロビを訪れ、国葬に参列した後の今でも、訃報が現実のものとは思えずにいる。私たちキャンペーン事務局にとって、マータイさんはそれほど大きな存在だった。

マータイさんを知ったのは、2004年10月、ノーベル平和賞内定が伝えられたロンドンからの特派員電だった。アフリカ人女性で初、環境分野で初。初物尽くしのマータイさんの笑顔は、実にチャーミングに見えた。「こんな女性を日本に呼べたらなあ」という酒場での話がプロジェクトの始まりだった。

現地の日本人をエージェンツにお願いしたり、小池百合子環境相(当時)

に招請状を書いてもらうなど紆余曲折を経てマータイさんから訪日をOKする返事をもたらしたのは翌05年の1月初旬。半ばあきらめかけていただけに、その時の感激は忘れられない。すぐにナイロビに飛び、初めてお会いしたマータイさんは、「遠い所からお疲れ様」と、あの素敵な笑顔で迎えてくれた。

翌2月に初来日したが、定刻どおりに来てくれるか心配で、ロンドン経由でパリまで迎えに行った。待合室でまたあの笑顔を目にした時は正直、ほっとした。来日初日、毎日新聞の編集局長とのインタビューで出会ったのがMOTTAINAIだった。

ひそかに質問項目に忍ばせていたが、マータイさんが、これほどほれこむとは思っていなかった。それどころかマータイさんは「世界の合言葉」と行く先々でPRしてくれた。「それなら3R商品を作ってキャンペーンを展開しよう」と彼女とともにスタートしたの

が、MOTTAINAIキャンペーンの始まりだった。

キャンペーン名誉会長としてのマータイさんの活躍は予想を超えていた。翌3月にはニューヨークで開かれた国連女性の地位向上委員会女性たちに「もったいない」を三唱させたり、7月には英国のサミット会場近くで開かれたチャリティイベント「ライプ8」で、5万人を前に紹介するなど世界の伝道師となった。

私たちスタッフも、キャンペーンの協議や取材のためケニアはもちろん、ロンドンやエジンバラ、ニューヨークやシアトル、スイスのジュネーブなどマータイさんが行く先々を追いかけていった。どこへ行っても、MOTTAINAIはもってるん、「日本の有力紙・毎日新聞」も必ず紹介してくれた。この広告効果は数億円になったかもしれない。

母国ケニアでは民主化運動のリーダーで「悪い人」というイメージが強い。しかし、私たちには、優しく思いやりのあ



2011年10月30日ワンガリ マータイさん追悼特集(全国)

る母親のような存在だった。講演の際、「1時間たったら合図してね」と言われて合図したのに、力がこもっていつも終了時間を数十分もオーバーした。そのたびに「長すぎちゃってごめん」と片目をつぶるお茶目なところもあった。

キャンペーンは、マータイさんの来日に合わせた各種イベントや講演会、そして環境に優しい商品を各企業と開発し、販売するといったビジネスに発展していった。そのビジネスモデルのパートナーが、伊藤忠商事。各企業にキャンペーンの趣旨を説明し、ライセンス商品作りを提案。今では、52社の企業がキャンペーンを支えている。



風呂敷包みを手にするマータイさん(2010年2月17日:MOTTAINAIステーション)

その企業からの協賛金の一部は、マータイさんが設立したNGO団体であるグリーンベルトムーブメントに寄附し、「緑のMOTTAINAI」としてケニア山のおもとの広大な土地の植林プロジェクトに充てられている。マータイさんが子どもの頃に見てきた森が、再生される日は遠くない。

マータイさんは毎日新聞の招きで2010年2月までに5回来日したが、日本が大好きで、いつも日本のことを気にかけてくれていた。東日本大震災の直後、メールで私たちに「日本人は優秀ですから、最善で効率的なやり方で復興できると信じています」と励ましのメールを送ってくれた。彼女にとって日本は「いつも私をインスパイア(靈感を与える)する国」だった。

ケニアで10日間にわたる告別行事に出席したが、彼女がいかに人々に敬わ

れ、慕われているかを身近に感じる事ができた。私たちとの最後のインタビューでマータイさんは東アフリカで深刻になっている干ばつ問題について「この現実を見れば、私たちは2倍働かなければなりません。それが環境破壊を食い止めるための最善の方法なのです」とアフリカへの熱い思いを語っていた。

自然への感謝、不屈、倍の努力……。マータイさんは志半ばで旅立ったが、その遺志は私たち日本人にも、世界中の人々の心の中にも生き続けている。MOTTAINAIキャンペーンをさらに世界に広げていくことも、マータイさんが私たちの心に播いた貴重な種に違いない。芽が苗になり、花になり、大きな枝をつけるまで、倍の努力を続けていこうと今、思いを新たにしている。

MOTTAINAIキャンペーン事務局  
写真 山田茂雄